

普及活動情勢報告（令和3年2月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

ニンジンの収穫体験会（農事組合法人庄毛ファーム）



2月1日、室戸市保健介護課主催のニンジン収穫体験が同市吉良川町の農事組合法人庄毛ファームのほ場で行われ、室戸市と奈半利町の福祉施設の入所者と関係者、計11人が参加しました。

農業改良普及課室戸支所は8月からニンジンの栽培指導を行い、11月から農福連携のコーディネートを行ってきました。

参加者からは「すぼっと抜けたときに快感。楽しい」との声があり、約20キロを15分程度で収穫しました。

収穫されたニンジンはその日のうちに指定障害者福祉サービス事業所「むろとうみがめ」で調製され、地元加工業者におでんの具材として納品されました。

農業改良普及課室戸支所は、5月出荷に向けて、庄毛ファームの活動を支援していきます。

GAPでよりよい農業経営を ～馬路村GAP現地指導～



1月22日、農業改良普及課のGAP指導員4人が、「国際水準GAP」を実施している馬路村のユズ生産者8人の現地を巡回し、GAP実施内容確認書に基づいて実施状況を確認しました。

確認の結果、パート従事者も労働者災害補償保険に加入している等人権配慮の意識の高い生産者も見られ、確認書どおり適正に実行されていました。さらに改善が必要な点としては、鍵のかからない場所での農薬の一時保管がありました。指導後すぐに鍵のかかる場所へ移動されました。

農業改良普及課は、今後もよりよい農業につながる生産者の取組を支援していきます。

栽培技術の向上を目指して ～ユズの剪定講習会～



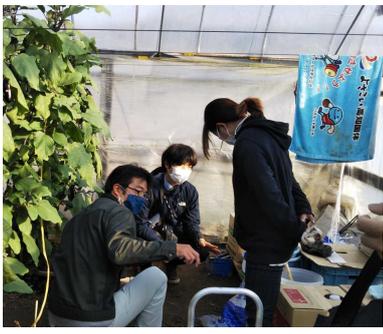
2月、柚子部北川支部の生産者53人を対象に、農業改良普及課は安芸管内のユズほ場で、剪定講習会を順次行いました。

2月初めの講習会で農業改良普及課は、樹形の構成や樹勢に応じた剪定方法の違いについて、資料と実演で指導しました。資料には昨年剪定した樹がその後どのように変化したのかわかる写真を添付する工夫もしました。

指導後に栽培経験の浅い生産者に実際に剪定してもらおうと、「説明を受けている時は理解しているつもりだが、自分がやる時は迷う」と手が止まる場面がありました。

農業改良普及課は、指導方法を改善しながら生産者の栽培技術の向上を支援していきます。

新規就農者の早期経営安定を支援 ～赤野地区新規就農者サポートチームで巡回指導～



2月1日、赤野地区新規就農者サポートチーム（安芸市、J A、農業改良普及課）は、赤野地区のナス新規就農者（農業次世代人材投資事業対象者）6人のハウスを訪問し、今作の栽培状況や経営目標の達成状況等を確認しました。

新規就農者からは、「今年の栽培は上手くいきよう」「加温機を導入したらナスの調子がいい」等の声がありました。

農業改良普及課は今後も巡回指導等を通じて、新規就農者の早期経営安定に取り組みます。

安芸市就農支援チームでサポートハウス利用者を巡回指導



2月5日、安芸市就農支援チーム（安芸市、J A、農業改良普及課）は、サポートハウスを利用しているナス生産者6人を訪問し、栽培管理状況及び経営目標の達成状況、サポートハウス利用終了後の栽培計画等について確認しました。

生産者からは、「昨年より今年は気温が低いので温度管理が難しい」「観察力がまだ不足しているので、色々な人が来てアドバイスしてくれるのはすごくプラスになっている」等の声がありました。

農業改良普及課は関係機関と連携し、今後も定期的な巡回等を通じて、新規就農者の早期経営安定への支援に取り組みます。